



2020年2月7日

日本鉄道労働組合連合会

## JR連合第32回中央委員会

# 「JR連合ビジョン」の実践を通じて組織強化を図り

## JRで働く全ての仲間のJR連合への総結集を図ろう！

JR連合は2月5日、JRホテルクレメント高松において第32回中央委員会を開催した。中央委員や特別中央委員など総勢200名が参集し、安全の確立、2020春季生活闘争勝利、「JR連合ビジョン」の実践を通じた組織強化・拡大、政策課題解決などを柱とした当面の活動方針を、真摯な討議を経て満場一致で決定した。



冒頭、壇上に立った荻山市朗会長は、「JR産業が社会の変化に対応して労使の持続的な発展を築いていくためには、JR連合の組織と運動を磨いて足元を固め、組合員、会社、社会から信頼される運動を実践するとともに、JRグループ、JR産業に働くすべての仲間の総結集をめざしていく」と決意を語った。

また、10名の委員からの発言と執行部からの答弁を踏まえて総括答弁に臨んだ尾形泰二郎事務局長は、「JR連合ビジョン」を策定した経緯やそこに込めた想いを説明したうえで「将来をしっかりと見据えた真っ当な価値観を有する労働組合の存在は、JRにとって、地域にとって、そして日本にとって不可欠な存在。私たちはそうした労働組合を目指してこれからも進化していく。そして、理念と具体的な運動を通じて、組合員はもとより、JR連合に加入していない多くの仲間、労使関係を構成する会社、世論など様々な関係主体に向けて訴えかけ、共感の輪を拡げていく」と訴えた。

なお、委員会には新たにオブ加盟した「奈良ホテル労働組合」の乾委員長、久米書記長が出席し、JR連合への加盟証書が贈呈された。乾委員長からは、ともに運動を発展していく決意が述べられ、会場からの盛大な拍手で迎え入れられた。